チェルノブイリ原発事故３６周年の集い
～海に流すな！放射能汚染水～

2022 年 **４月２３日**（土）午後 1:30～4:30

大阪市立総合生涯学習センター（第１研修室）

＊プログラム＊

1. ＜事務局報告＞ *チェルノブイリとフクシマを結んで*
   国連人権理事会への意見書提出,トリチウム汚染水海洋放出反対の取組
   報告など

2. ＜講演＞
   「海と離れずに生きること～福島の漁業のいま」
   川島 秀一 さん (日本民俗学会 会長)

3. ＜歌＞“非核の想いを綴る” アカリトバリ さん
4. 質疑・応答，討論
5. チェルノブイリとフクシマからのメッセージ
6. アピール

政府と東電は、2023年春から福島第一原発のトリチウム汚染水（ALPS処理水）の海洋放出を開始する方針を決定し、今年６月にもそのための設備着工を目指すとしています。そして現在、規制委員会で東電の提出した計画の審査が進められています。私たちは、原発重大事故を起こし、汚染水対策に失敗した国と東電が、その責任を取らず、さらなる放射能汚染と被ばくを被害者に押し付ける、放射能汚染水の海洋放出の方針を許すことはできません。そのような決意から、今回の「集い」では「海に流すな！放射能汚染水」を中心テーマに据えました。

「集い」では、漁民の生活と文化を長年にわたって調査研究してこられた民俗学者・川島秀一さんにご講演をお願いしています。川島さんは、宮城県気仙沼の出身で、東日本大震災で被災しました。その後、福島県新地町釣師浜（つるしはま）の漁師の小野春雄さんと出会い、2018年から新地町に移り住んで小野さんの船の乗子（のりこ）（乗組員）になって調査を続けておられます。津波で家や家族を失っても、原発事故で生業を制限されても、「海と離れずに生きる」漁師さんた

川島秀一さん

主催：チェルノブイリ・ヒバクシャ救援関西

ちの姿、そして共に漁船に乗り、同じ「新地」の漁師町で暮らして見えてきた「福島の漁業のいま」を、川島さんにお話していただきます。私たちも、福島の漁師さんたちとも繋がって、放射能汚染水の海洋放出の方針を撤回させるために何ができるか、皆さんと一緒に考えたいと思います。

また、私たちは昨年、フクシマ事故１０年・チェルノブイリ事故３５年に、チェルノブイリとフクシマの被害者とともに、原発重大事故をこれ以上繰り返させない、事故被害者の補償と人権確立をめざそう、「非軍事」の核利用の人権侵害も世界に訴えようと、国連人権理事会への「意見書」提出をめざして取り組んできました。そして、２月７日に現在開催中の国連人権理事会（第４９回会期）に意見書を提出しました。この取り組みに関しても事務局から報告し、今後の活動について話し合いたいと思います。

ぜひ、「集い」にご参加ください！

（尚、コロナ感染の再拡大のために「緊急事態宣言」等が出た場合には、会場での開催方法について慎重に対応する必要が出てくるかと思います。その都度、状況をみながら事務局で開催方法を判断いたします。ご不明な場合は、事務局までお問い合わせください。）

事務局・問合せ：072-253-4644（猪又），cherno-kansai@titan.ocn.ne.jp

【川島秀一さん・プロフィール】

1952 年、宮城県気仙沼市生まれ。法政大学社会学部社会学科卒業。東北大学附属図書館、気仙沼市史編さん室、リアス・アーク美術館、神奈川大学特任教授、東北大学災害科学国際研究所教授などを経て、現在、同研究所のシニア研究員。本拠地を福島県新地町に移し、漁師の手伝いもしている。専門は日本民俗学。博士（文学）。東北地方の民間信仰、口承文芸、列島の漁業民俗、漁村民俗などを研究対象としてきた。日本民俗学会会長。日本カツオ学会会長。著書に『ザシキワラシの見えるとき』（1999）、『憑霊の民俗』（2003）、『魚を狩る民俗』（2011、以上 三弥井書店）、『漁撈伝承』（2003）、『カツオ漁』（2005）、『追込漁』（2008、以上 法政大学出版局）、『津波のまちに生きて』（2012）、『安さんのカツオ漁』（2015）、『海と生きる作法』（2017）、『春を待つ海』（2021、以上 冨山房インターナショナル）、『「本読み」の民俗誌』（2020、勉誠社出版）など多数。編著に山口弥一郎『津浪と村』（2011、三弥井書店）、『渋沢敬三　小さき民へのまなざし』（2018、アーツアンドクラフツ社）、『宮田登　歴史的民俗論へ向けて』（2021、アーツアンドクラフツ社）など。

川島さんの著書
表紙写真は漁師の小野春雄さん